



はなのき

神坂小学校だより No.13 2023.3.22



響き渡る「ありがとう」の声

校長 高橋 浩之

6年間の歩みと今年一年の取組の成果が感じられる6年生を送る会。恒例行事ではありますが、毎年6年生の歩みには違いがあり、今年は感謝の思いが全面に表れた会でした。5年生が全体の指揮をとり、様々な工夫をしながら会を企画・運営してくれました。少ない人数での活動は大変だったと思いますが、一人一人最後まで責任をもって取り組む姿が見られました。その5年生のがんばりに応えるかのように、どの学年も6年生のことを思い、感謝を様々な表現で示し、精一杯の発表を行いました。

<子ども達の6年生への思い>

- いつも玄関前で挨拶を一緒にしてくれた6年生。元気な挨拶をされるといつもほめてくれました。おかげでどんどん声が大きくなり、今ではみんなに挨拶できるようになりました。
- みんなの前で話すのが苦手だったけど、委員会の司会進行を経験させてくれたり、つまずくとすぐに助けてくれたりしたおかげで、自信をもって話せるようになりました。
- やさしく教えてくれた三味線。わからないところがあると、実際に弾いて見せて、何度も励ましながらアドバイスをしてくれました。そのおかげで、少しずつ自信がもてるようになりました。



私は、子ども達の話聞きながら、日常の6年生の言動を振り返り、野地 秩嘉さん(ノンフィクション作家)の話思い出しました。

「誰かが交換するだろう」という考えはない

これまで、〇〇の工場を見学して、一度たりとも蛍光灯が切れているのを見たことがないのです。△△△工場はひとつの建屋で数百人が働いています。照明の数も相当なものです。最近LEDになりましたから照明の寿命は長くなっています。それでも広い工場ですから、一灯くらい切れていいはずですが、しかし、たったの一度も、天井灯が切れているのを見たことがないのです。ある時、たずねてみました。答えはこうでした。「朝、来た時に照明をつける。ひとつでも切れていたら交換する。それだけのこと」

確かにその通りなのです。誰でも、どこの会社でもできることなのです。しかし、「誰かが交換するだろう」と考えて、自分は蛍光灯を換えない。(中略) 見つけた人がその場で、その瞬間に交換する。いちばんシンプルな解決法です。 一部抜粋



6年生や神坂の子ども達は、このシンプルな行動を実践できる子達だと思っています。ゴミが落ちてれば拾う。何かしてもらえたらお礼を言う。誰かに出会ったら挨拶する。困っている子を見たら声をかける。係とか、役割とかの前に、自分ができていることに気付いたらまずは行ってみる。こういった行動を積み重ねることが出来る6年生だから、下級生からたくさんの「ありがとう」が届いたのだと思いました。

いよいよ明日は卒業式です。リーダーとして歩んだ6年生。支えてくれたのは、仲間であり、家族の皆様、地域の皆様のおかげだと感じとっていることと思います。感謝の気持ちを言葉や表情で表してくれる卒業式を期待しています。

今年度もコロナ禍での活動のため、様々な場面でご負担をおかけしたことと思います。今後も、保護者の皆様、地域の皆様のお力をお借りしながら、工夫改善し活動していきます。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。